

# 新庄徳洲会病院における Ai-CT 実施状況

2019年 1月 更新

医療法人徳洲会 新庄徳洲会病院  
診療放射線科

# 【はじめに】

## オートプシー・イメージング

( Autopsy imaging = **Ai** )

- Ai とは、① 狭義 : 『 **死亡時画像診断** 』  
⇒ 画像診断単独
- Ai とは、② 広義 : 『 **死亡時画像病理診断** 』  
⇒ 画像診断後に解剖を施行し、その情報を画像と統合する。
- 画像診断装置 (X線, CT, MRI, US 等) を用いて死亡後の遺体を撮影して死因を検索する手段である。
- Ai は、検死の一環としてスクリーニングで行われるようになってきています。

## 【 目 的 】

- 2012年 6月15日 「 死因究明2法 」 可 決
- 2013年 4月 1日 「 死因・身元調査法 」 施 行



- 第五条『**警察署長**は、その死因を明らかにするために体内の状況を調査する必要があると認められるときは、その必要な限度において、体内から体液を採取して行う出血状況の確認、体液又は尿を採取して行う薬物又は毒物に係る検査、**死亡時画像診断**（磁気共鳴画像診断装置その他の画像による診断を行うための装置を用いて、体内の内部を撮影して死亡の原因を診断することを言う。第13条において同じ。）その他の政令で定める検査を実施できる。

…………… 法律の中に**Ai**が明記されました。

- 当院においても、2013年度以降、警察署からAi依頼が増加してきました。そこで、CTを利用したAi実施状況を毎年、取りまとめられていますので報告します。

# 【 方 法 】

## 調査期間

※ 2013年1月1日～2018年12月31日

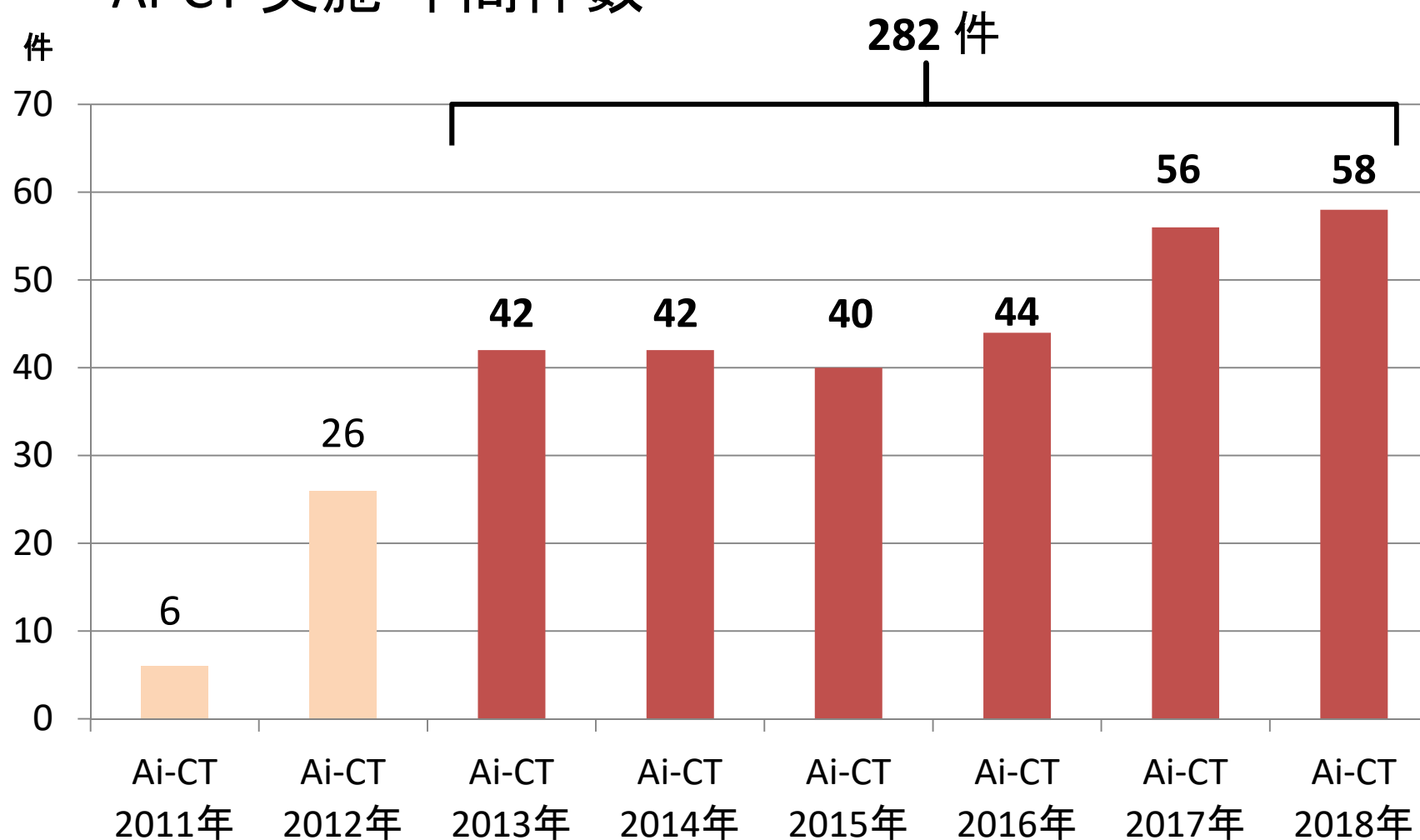
直近6年間の Ai-CT実施状況を以下の通り取りまとめた。

- ① Ai 実施件数・種類別  
( 件数推移・院内Ai・院外Ai・警察Ai )
- ② Ai 実施内訳  
( 月別・年齢・男女別・警察署依頼先別 )
- ③ Ai 実施後の読影による死因判明有無  
( 死因判明率・死因別内訳 )

# 【 結 果 】

## ① Ai 実施件数 推移

### Ai-CT 実施 年間件数

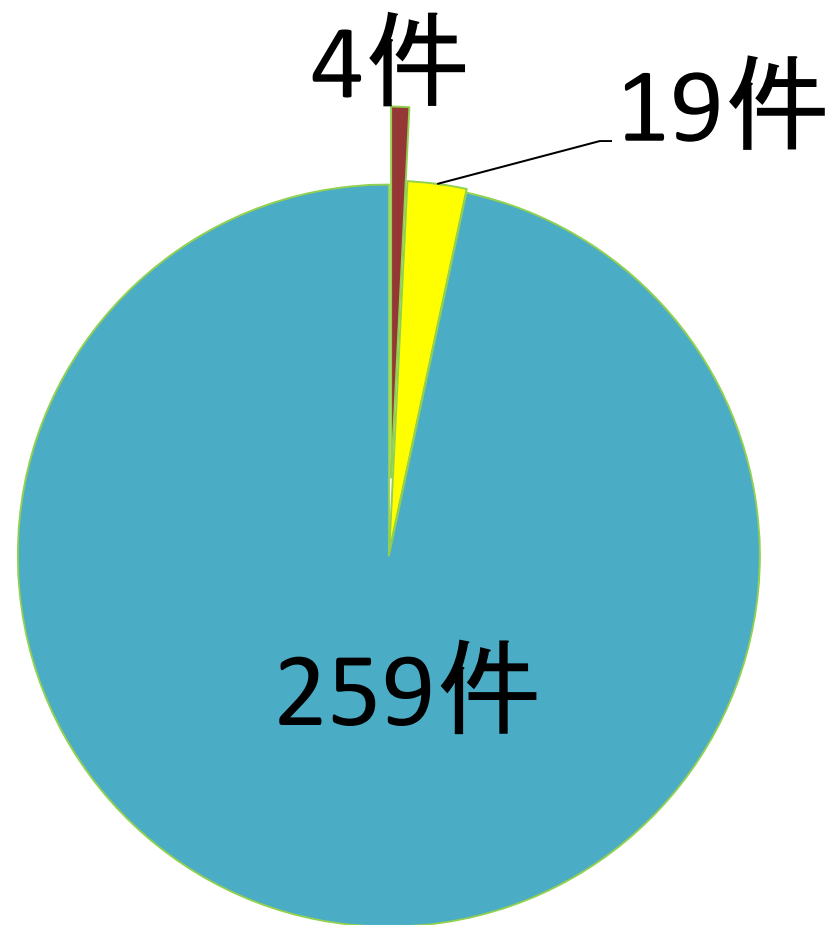


# 結果 ① Ai 実施 種類別

2013年～2018年

Ai-CT 282件の内訳

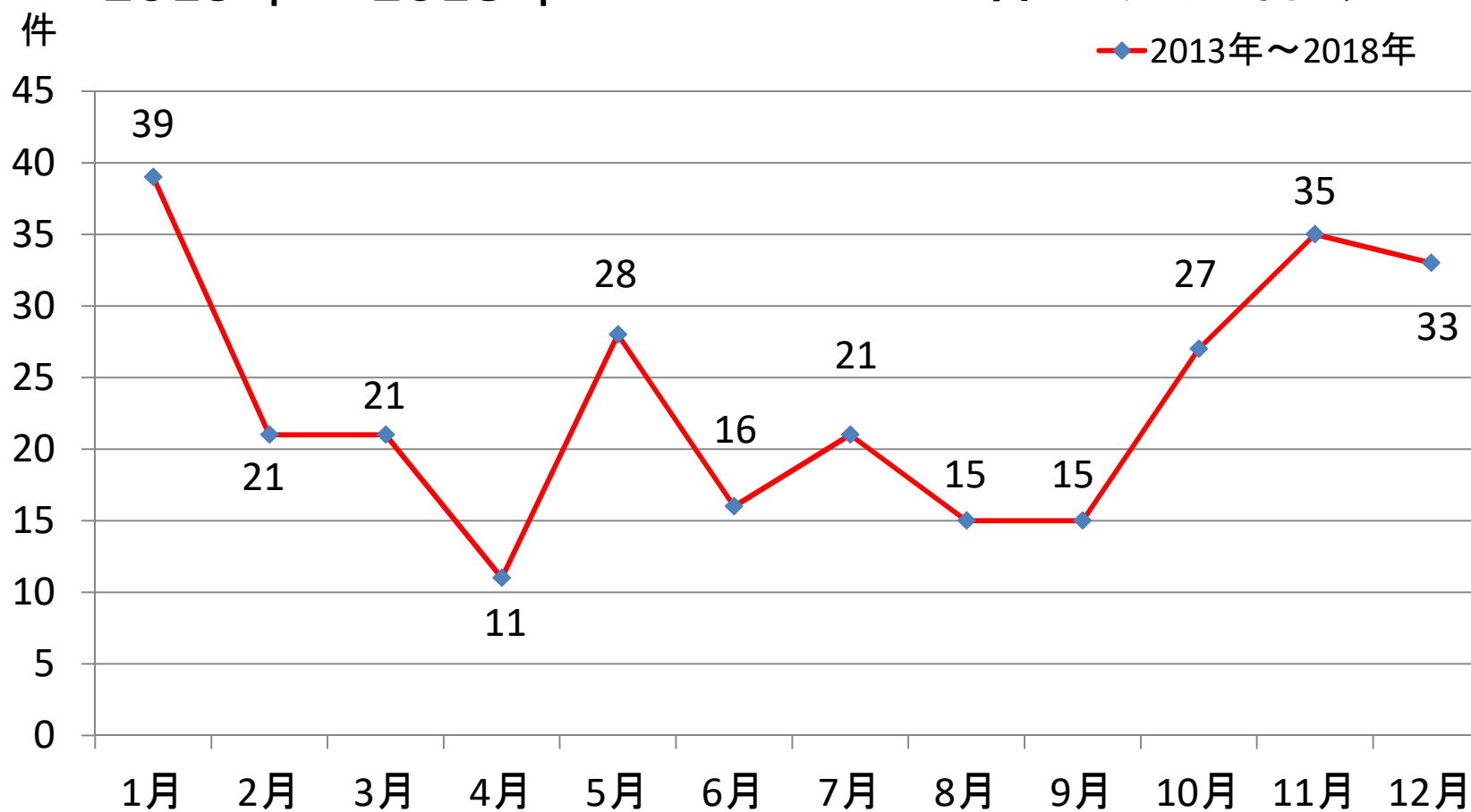
- 院内Ai
- 院外Ai
- 警察Ai



# 結果 ② Ai 実施内訳 月別

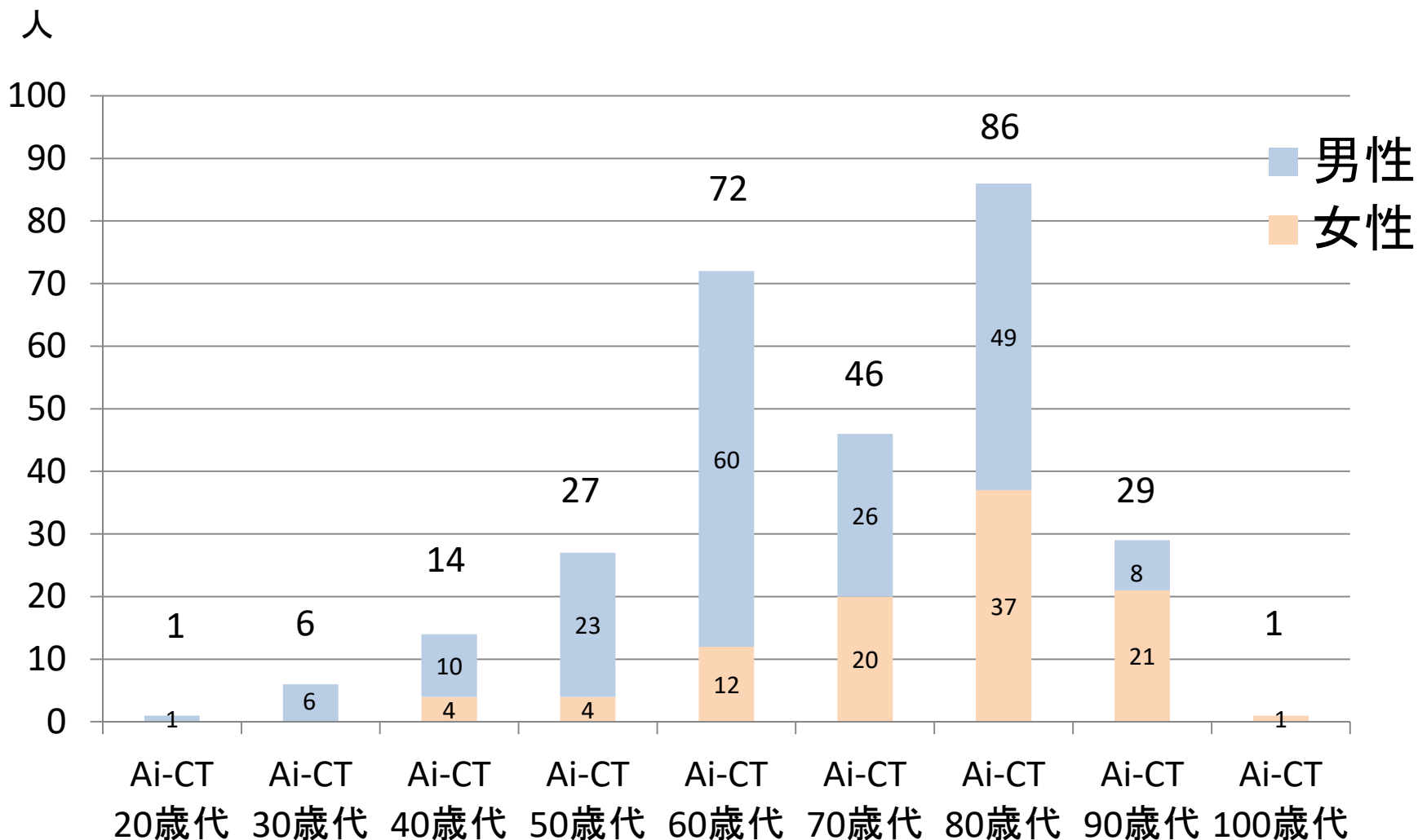
2013年～2018年

Ai-CT 282件の月別件数



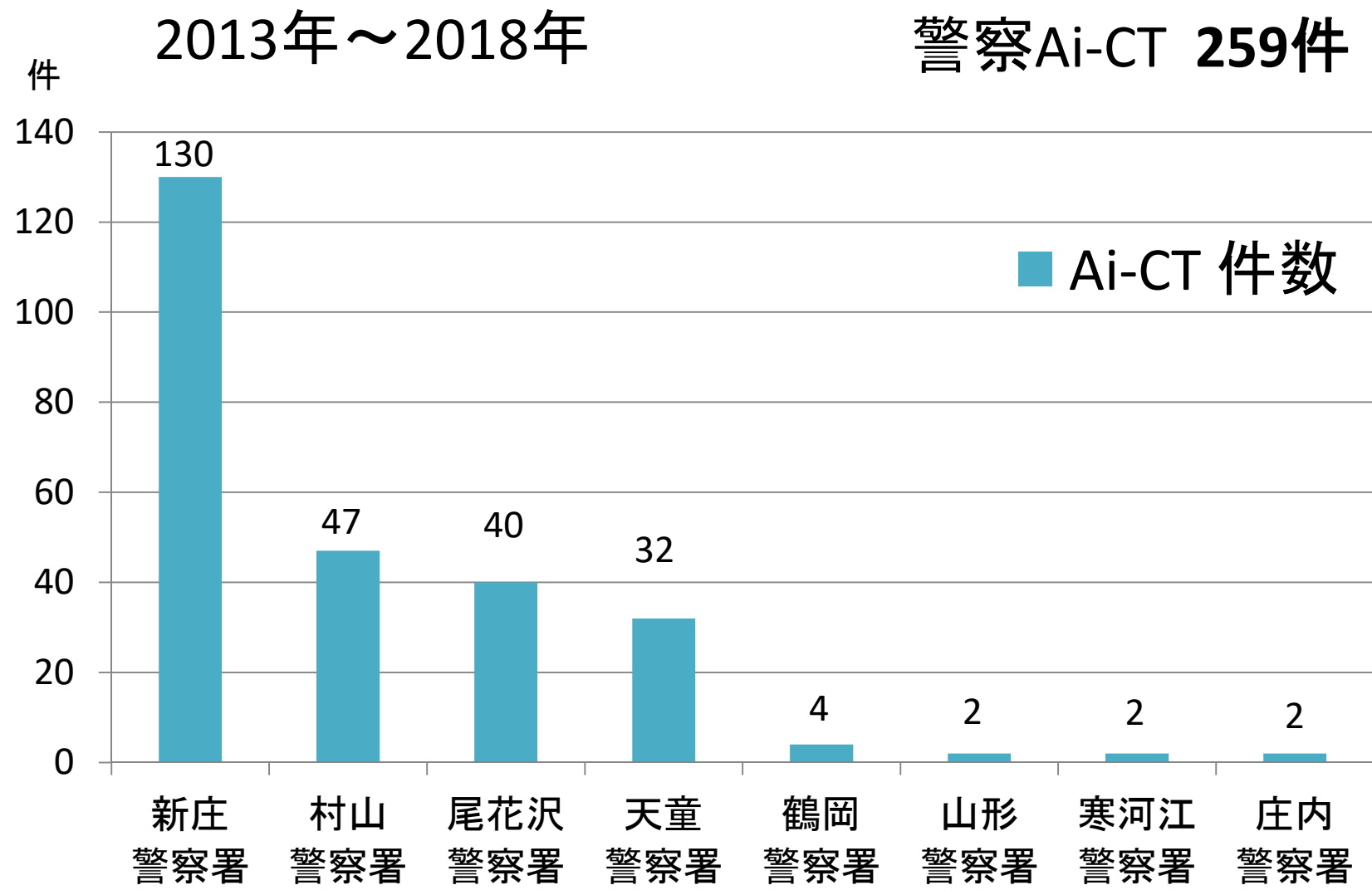
## 結果 ② Ai 実施内訳 年齢・男女別

2013年～2018年 Ai-CT 282件の年齢・男女別人数





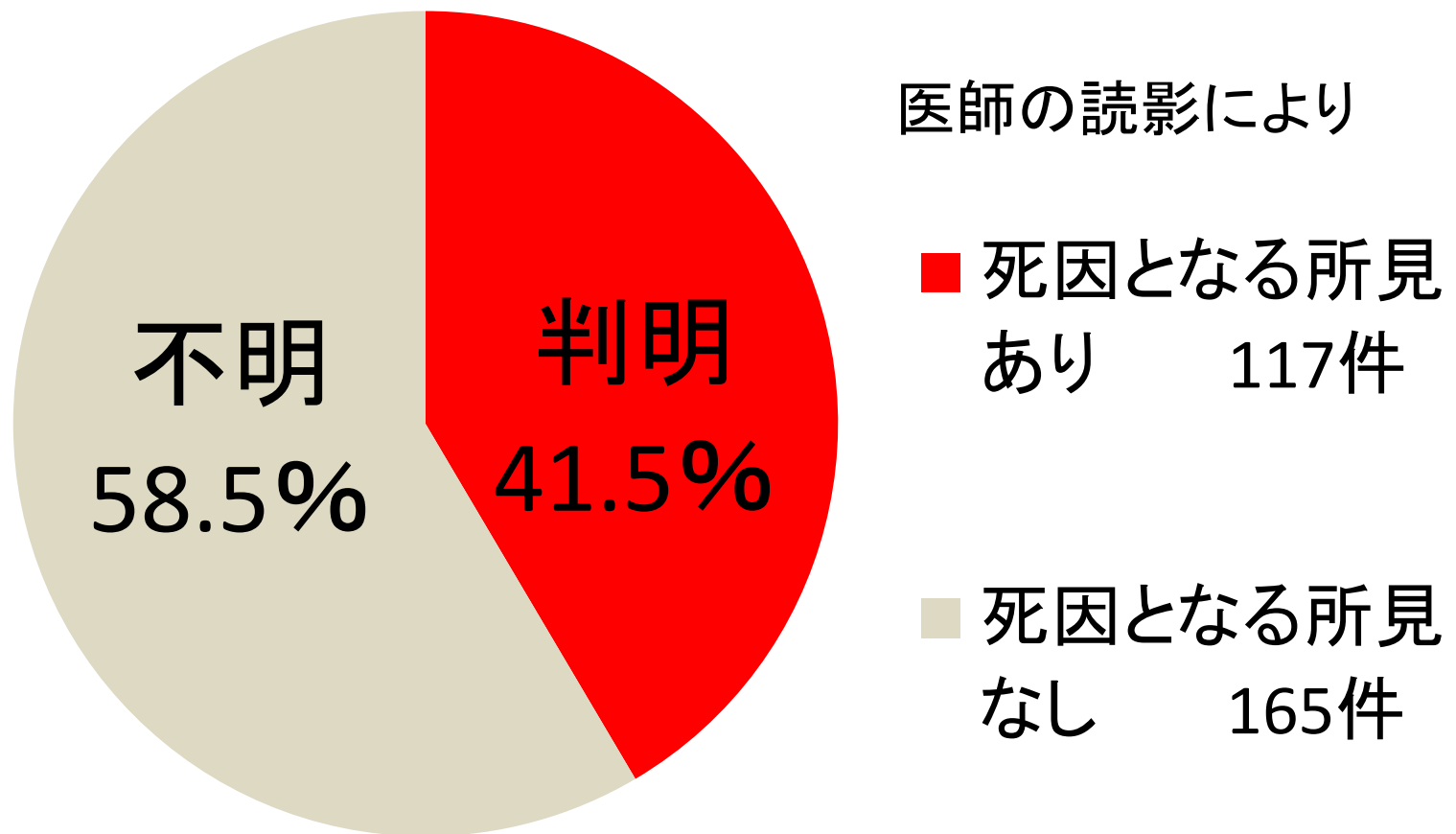
# 結果 ② Ai 実施内訳 警察署依頼先別



# 結果 ③ Ai 実施後 死因判明有無

2013年～2018年

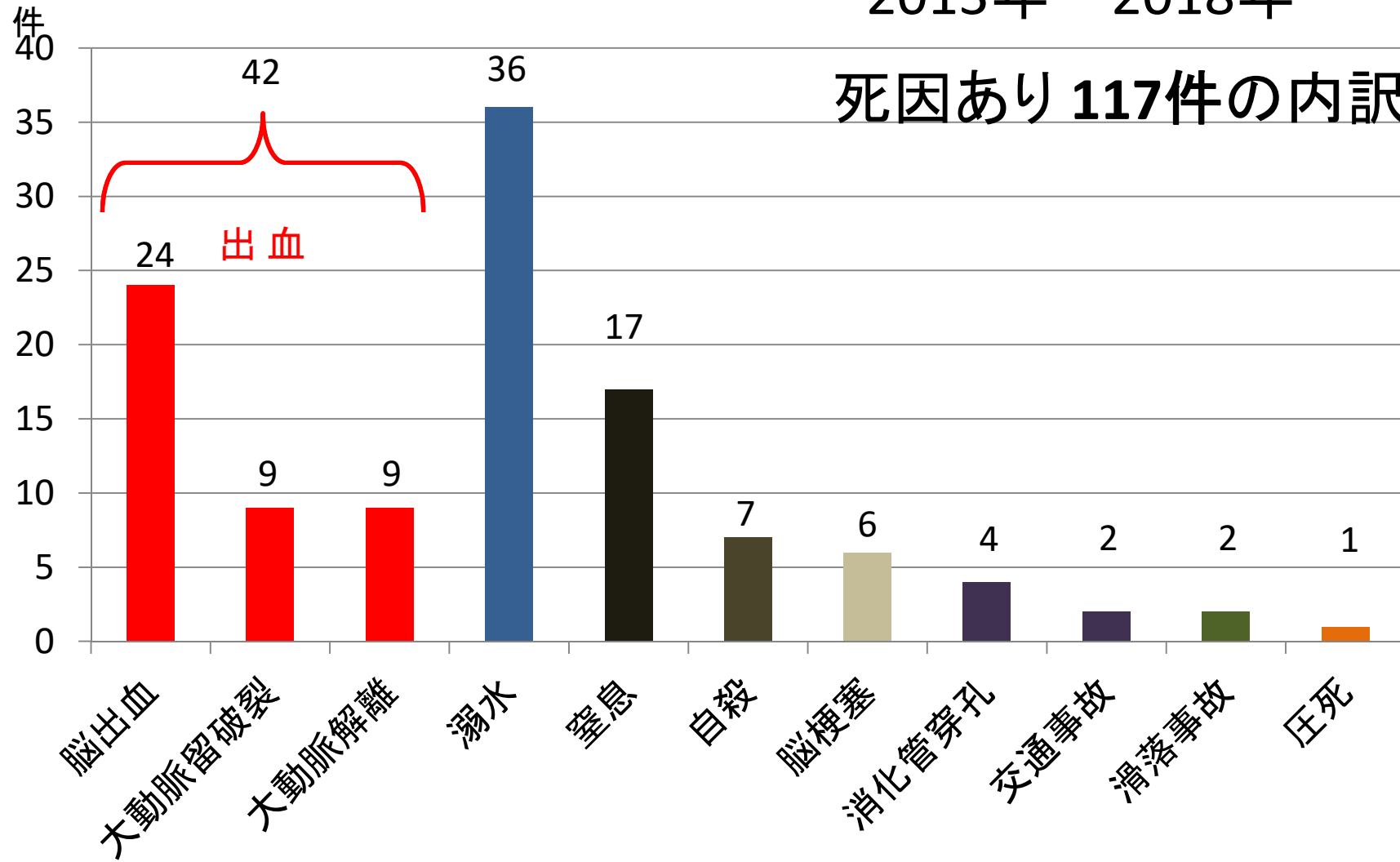
Ai-CT 282件の死因判明率



# 結果 ③ Ai 実施後 死因別

2013年～2018年

死因あり 117件の内訳



# 結 果

- 2013年～2018年の6年間でAi-CTを **282件** 実施しました。
- 6年間で、病院内の入院患者さんが対象となった **院内Aiは4件**、病院外で心肺停止となり、救急搬送されたが亡くなり死亡確認後死因検索目的で行われた **院外Aiは19件**、警察署からの死因究明依頼で行われた **警察Aiは259件** でした。
- 月別では、秋から冬に向う季節の変わり目から徐々に増加し、1月が最も Ai件数が多かった。5月にAi件数が多い要因は、休日・祝日でも Ai対応を行なっているため、警察署から当院へ依頼されるケースが多いと考えられる。
- 年齢別では、80歳代の依頼が一番多く、続いて60歳代の依頼でした。
- 男女別割合は、男性：**64.9%** 女性：**35.1%**。

- 警察署の依頼先は、新庄警察署依頼が全体の**50.2%**を占め、続いて村山警察署依頼が全体の**18.2%** 尾花沢警察署依頼が全体の **15.4%** 天童警察署依頼が全体の**12.4%** でした。
- Ai-CT実施による死因判明率は、直近6年平均で **41.5%** でした。
- 死因は、脳出血、大動脈留破裂、大動脈解離を合わせた**出血**による死因が最も多い。続いて浴槽内や用水路、川での発見による**溺水**が原因の死因であった。また、高齢者の誤嚥による**窒息**での死因も多く見られた。そして、**自殺**による死因が年々増加してきていた。

## 【まとめ】

- Ai-CTは、出血が原因の死亡例に対して、診断能に優れていることが、改めて解る。
- 高齢者の多くは、浴槽死と言われる、浴槽内での発見による溺水が原因の死亡例が冬季に多発している。
- Ai-CTの死因判明率は、一般に 30%程度と言われているが、当院の死因判明率は、直近6年平均で 41.5%である。
- Ai-CTが定着している中、今後も警察署依頼のAiに対しては、柔軟に対応しニーズに応えて行きたいと考えています。